

2022 年度 2 学期始業式

皆さん、おはようございます。

今日からいよいよ 2 学期が始まります。

長いようで短かった夏休みが終わり、皆さんが毎日登校してきてお会いできるようなること、とても嬉しく思っております。

この夏は、東京都心でも猛暑日が過去最多となる厳しい暑さが続きました。一方で日本各地に豪雨による災害が起きていることが報道されていました。世界に目を向けると、水害に加え、熱波、山火事、干ばつなどの自然災害、そして、ウクライナとロシアをはじめ、ミャンマーやアフガニスタンなどに見られるように紛争や束縛・弾圧に苦しんでいる人々がいます。その上に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、不安の多い日々でもありました。

そんな中、皆さんからの暑中お見舞い、残暑お見舞いの葉書きが届きました。皆さんが注意しながら活動し、日頃できないことにもチャレンジしていらっしゃる様子が伝わってきて元気をいただきました。感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされながらも、この夏は久しぶりに行動制限の少ない中で、部活動に補習、自習室を実施できたこと、本当に喜ばしいことでした。この夏休み初めて実施運営した自習室は大変多くの方の利用があり、開設した甲斐がありました。そして、自習室の見守りを引き受け協力してくださった卒業生の皆さんにも感謝です。

夏休み中の部活動においては、直近の大会や発表会に向けて励む皆さんの姿、来年 4 月の光塩祭に向けて計画的に準備を進めている姿、また、中 1 や中 2 の指導を工夫しながら行っている上級生の姿に感心いたしました。

先日、関東地区カトリック女子球技大会が行われましたし、第 9 支部総合競技大会も行われています。9 月以降も各種大会が予定されています。これらの場で、精一杯磨いてきたものを表現し、また次なる目標につなげていくことは、その競技や活動に限らず、他の分野においても今後につながっていくものと思います。是非、今の自分と向き合い、今できていること、今できていなくてこれから習得していきたいことを位置付け、次のステップに進んでください。

夏休み中には、3 号館外壁タイル補修工事、5 号館防水塗装工事、5 号館体育館床補修工事が行われました。皆さんの見えないところで施設の安全を考え、危険なところがないか管理してくださる方がいて、その方々のもとで発注を受け、工事をしてくださる技術者がいて、またお金を支払うべく計算してくださる方がいる。多くの方々の尽力のもとに、私たちの快適で安全な学院生活があります。特に、5 号館体育館床補修工事は、5 号館体育館を既に使用している部活の方々はその工事の効果を実感していると思います。他の皆さんも体育の授業の際に実感し、感謝の念を抱いてくださると嬉しいです。

さて、夏休み中、皆さんは読書を楽しみましたか？私は何冊かの本をゆっくり読むことができました。その中で最も心に残ったものは、吉野源三郎著「君たちはどう生きるか」（ポ

プラ社)でした。読み終わった日は、感動のあまり夜なかなか眠れませんでした。この本の魅力を語ると切りがありませんが、ここでは主人公のコペル君が発見した「人間分子の関係、あみの目の法則」を紹介したいと思います。

コペル君はおじさんから聞いたニュートンの話のおかげで、夜中に目が覚めて粉ミルクの缶のことをニュートンに倣って考えました。14歳になった今はおせんべいやビスケットを入れている大きな缶ですが、コペル君が赤ん坊の時、お母さんの乳が足りなかったので、毎日オーストラリアから輸入したラクトーゲンという粉ミルクをのんで育ったのだとお母さんから聞きます。

そこで、コペル君はオーストラリアの牛から自分の口に粉ミルクが入るまでのことを順々に思ってみました。皆さんも想像力を働かせて思い浮かべてみてください。

牛、牛の世話をする人、乳をしぼる人、それを工場に運ぶ人、工場で粉ミルクにする人、缶につめる人、缶を荷造りする人、それをトラックかなんかで鉄道に運ぶ人、列車につめこむ人、列車を動かす人、列車から港へ運ぶ人、汽船につめこむ人、汽船を動かす人、汽船から荷をおろす人、それを倉庫に運ぶ人、倉庫の番人、売りさばきの商人、広告をする人、小売りの薬屋、薬屋まで缶を運ぶ人、薬屋の主人、薬屋の店員さんと、とても長いリレーで自分のもつに届いたということに気がきます。工場や列車や汽船を造った人まで入れると、何千人だか何万人だかしれない、たくさんの人が自分につながっていることに気が付きます。その他に電灯や時計、机や畳、部屋の中にあるもの、次々考えてみても同じで数えきれない大勢の人とつながっています。一人ひとりが分子のように働き動いていてあみの目のようにつながっているのです。

このことに思い至ったコペル君がそれからどうしたのかはぜひ直接本をお読みください。

私はこの記述から先ほど話した体育館の補修工事のことも含め、私たちの生活の営み一つ一つが多くの人々の労働の実りとして成り立っている。何千人だか何万人だかしれないたくさんの人につながっていて、その方々から恩恵を受けて、生活していることを改めて教えられ、感謝の念を覚えました。

これは逆のことも言えます。私たち一人ひとりの生活が何千人、何万人に影響を与えるべくつながっている。だから、先ほどお話した気候変動に伴う自然災害で苦しんでいる人やウクライナなどで起こっている紛争で苦しんでいる人々のことを心にかけて、身近なところでできることをする。それは私たち人類およびあらゆる生物の住処である地球環境を大切にすることにつながりますし、平和の架け橋となり、あらゆる紛争解決の第一歩につながるのかもしれない。これから始まる2学期は、体育祭、親睦会、クリスマス会と行事も多くあります。これらの行事をはじめ、あらゆる活動および勉学を通して、「人間分子の関係、あみの目の法則」を意識し、心を込めて学び活動し働きかけて参りましょう。